

第17分野 予算と資金繰り

解説	企業存続のための根幹なす財務戦略のひとつに資金調達、資金運用等がある。今後の経営戦略の展開や資金運用方針に基づき、資金運用必要額を算出する。その内容とすると、設備資金の増加 運転資金の増加 投資資金などがある。 次に資金運用の内容を検討し戦略的観点と資本効率という観点から、その必要性や優先順位等について分析をする。 余資の運用についても、その運用額を把握したならば、運用方針に基づき、運用の方法を選定する。あわせて余資運用の場合は運用に伴うリスクを軽減するための対策を立てる。 資金運用計画ならびに年次別・月次別の作成する。
	資金計画の種類として一般的には年次資金計画、投資計画、資金繰り表が作成される。
	資金を把握するための性格別には、営業収支、投資収支、短期財務収支、長期財務収支の把握などがある
	予算統制は経営戦略、経営計画および組織運営と密接な関連性をもっている。すなわち、経営戦略を実行するための経費とその成果を予算化し戦略を実行するための経営計画にもとづいて予算編成される。自社の特性や経営戦略について把握し、自社にあった予算システムの構築が重要である
例題	資金繰り表の作成についてのポイントを述べてください
解答	1.月次、場合によってはもっと短期の資金繰り表を作成 2.現時点の資金状態を把握 3.売上回収条件の確定 4.仕入支払条件の確定 5.今月の営業活動の確定 6.今月末営業収支を把握(営業収入―現金売上等:営業支出―支払決済、人件費、経費、金利等)
例題	資金を常に把握しなければならないが、その要点を述べてください
解答	1.資金の残高の計算 2.資金の期間計算 3.資金収支を性格別に把握し資金計画表によって管理する
例題	予算統制による基本的な考え方を述べてください
解答	1長期経営計画に準拠した年次経営計画または期間利益計画を前提として予算が編成されなければならない 2.予算統制を行うための前提として内部管理体制が確立されていなければ、その効果を発揮することは難しい。 3.予算は各部門の業務計画を貨幣的に表示しこれを統合化したものである 4.経営環境の早い変化の対応するために予算は柔軟かつ弾力的に運用されることが必要である
例題	予算策定の目的を述べてください
解答	1.経営計画実行のコントロール手段 2.各部門管理者の対する経費支出権限の委譲 3.経費支出の管理手段、経費削減の目標設定(経費削減の達成目標として予算が設定される) 4.売上目標、回収目標の設定(業績目標の数値が予算として明示される)